

## コミュニティ・スクール活用の考え方

香川大学 柳澤良明

### 1. 地域とともにあるコミュニティ・スクール

- ①多様な学校における多様な取り組み
  - － 当該学校の課題にもとづいたコミュニティ・スクール
- ②多様な地域における多様な取り組み
  - － 当該地域の課題にもとづいたコミュニティ・スクール
- ③「独自の活動を自由に盛る器」としての制度
  - － 3つの権限の捉え方

### 2. プロセスで活性化するコミュニティ・スクール

- ①ギブ・アンド・テイクの関係づくり
  - － 児童・生徒にとっても地域住民にとっても意義のある取り組みの構築
- ②情報共有の場づくりと「作り上げるプロセス」の確保
  - － 取り組みアイデアが生まれるまでの発酵時間の共有
- ③キャリア教育の場としてのコミュニティ・スクール
  - － 児童・生徒への「大人モデル」「生き方モデル」提示の場

### 3. 児童・生徒を核としたコミュニティ・スクールの構築

- ①児童・生徒による活動報告の場としてのコミュニティ・スクール
  - － 関係者間での成果の共有および成果の自覚
- ②児童・生徒による意見表明・企画・立案の場としてのコミュニティ・スクール
  - － 「主役」としての児童・生徒（小・中・高による活動内容のステップ）
- ③児童・生徒の「生きる力」育成の場としてのコミュニティ・スクール

(参考) ドイツにおける生徒代表制 (Schuelervertretung) および民主主義教育学 (Demokratiepaedagogik)